

公益財団法人日本バレーボール協会 2016 年度第 2 回理事会(定例) 概要

1 日 時：2016 年 6 月 7 日(火) 14：00～17：00

2 会 場：東京体育館 第 2 会議室

3 出席者：

理事総数 19 名

出席理事 16 名

会長（代表理事）木村憲治

理事

志水雅一、林孝彦、宮島淑行、桐原勇人、井原実、岡野貞彦、
柿木章、坂本友理、迫田義人、中上孝文、林義治、福本ともみ、
丸山由美、宮嶋泰子、下山隆志（議題 4 終了時で退席）

監事総数 3 名

出席監事 2 名

高橋治憲、大西浩志

4 議 長：木村憲治

5 決議事項

- (1) 第 6 期（2015 年度）決算について
- (2) 第 6 期（2015 年度）事業報告について
- (3) 2050 年構想について
- (4) 中期計画について
- (5) 監事推薦候補者の決定について
- (6) 定時評議員会の開催及び目的事項について
- (7) アスリート委員会委員の追加選任について
- (8) 選手選考基準について
- (9) 定年に関する規程及び役員候補者推薦規程の改定について
- (10) コンプライアンスホットライン制度運用規程の改定について
- (11) 表彰規程の改定について
- (12) 体罰・暴力に対する処分の決定について
- (13) 役員報酬について

6 議事の経過の要領及びその結果

会長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は、定款第 41 条に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。

続いて議事録記名押印理事に柿木理事を選出し、次の議案の審議に入った。

(1) 第6期(2015年度)決算について

第6期(2015年度)決算について説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

当期の決算については、事業収益が、3,007,202千円、その内容は協賛金収入913,746千円、入場料1,063,019千円、業務委託料592,130千円などが主なものである。これらに受取メンバー制度登録料199,113千円、受取補助金・交付金等273,382千円等を加えると、当期収入の合計は3,492,193千円となる。事業費は競技力向上事業707,359千円、国際大会等開催事業1,605,559千円、全国大会等開催事業477,466千円が主なものであり、これに管理費を加え経常費用合計は3,371,665千円となったが、評価損10,956千円と経常外費用157,205千円を計上した結果、当期正味財産増減額は△95,164千円となった。

*第6期(2015年度)決算についての詳細は、資料記載のとおり

続いて、下記の通りに監査報告が行われた。

【監査報告】

公益財団法人日本バレーボール協会の第6期(2015年4月1日~2016年3月31日)の業務及び財産の状況等について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。

また、理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実とは認められない。

(2) 第6期(2015年度)事業報告について

第6期(2015年度)事業報告について以下の通り説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

【事業の概況】

(1) 理事改選に伴う新代表理事会長の就任

本年度役員改選により木村憲治(前Vリーグ機構会長)を代表理事・会長に迎え、林孝彦事務局長、井原実業務推進室長、下山隆志国内事業本部長兼国際事業本部長、宮島淑行M&M事業本部長、桐原勇人ビーチバレーボール事業本部長を業務執行理事とする理事19名の体制となった。

(2) 喫緊の課題への取組み

2050年構想及び中期計画の作成、財務体質改善、風土改革(ファン目線重視の徹底)に着手した。

(3) 主な日本代表の戦績

| | 種別 | 大会名 | 開催期間 | 開催国 | 成績(参加) |
|----|------------|------------------------------|-----------|------------------------------|---------|
| 男子 | シニア | ワールドリーグ・2 nd グループ | 5/29～7/5 | 日本・韓国・フランス・チェコ | 2位(4) |
| | | 第18回アジア男子選手権 | 7/31～8/8 | イラン | 優勝(16) |
| | | ワールドカップ2015 | 9/8～9/23 | 日本 | 6位(12) |
| | ユニバ | 第28回ユニバーシアード競技 | 7/2～7/12 | 韓国 | 6位(21) |
| | U-23 | 第1回アジアU-23男子選手権 | 5/12～5/20 | ミャンマー | 6位(16) |
| | ユース(U-19) | 第14回世界ユース男子選手権 | 8/14～8/18 | アルゼンチン | 15位(20) |
| 女子 | シニア | 第18回アジア女子選手権 | 5/20～5/28 | 中国 | 6位(16) |
| | | モントルーバレーマスターズ | 5/26～5/31 | スイス | 2位(8) |
| | | ワールドグランプリ・グループ1 | 7/3～7/26 | タイ、日本、中国、アメリカ | 6位(12) |
| | | ワールドカップ2015 | 8/22～9/6 | 日本 | 5位(12) |
| | ユニバ | 第28回ユニバーシアード競技 | 7/4～7/11 | 韓国 | 3位(16) |
| | U-23 | 第1回アジアU-23女子選手権 | 5/1～5/9 | フィリピン | 4位(12) |
| | | 第2回世界U-23女子選手権 | 8/12～8/19 | トルコ | 4位(12) |
| | ジュニア(U-20) | 第18回世界ジュニア女子選手権 | 9/11～9/19 | プエルトリコ | 14位(16) |
| | ユース(U-18) | 第14回世界ユース女子選手権 | 8/7～8/16 | ペルー | 9位(20) |
| | 男子 | ビーチバレーボールワールドツアー | | 7/21～ | 日本 |
| 女子 | 資生堂グランドスラム | | 7/26 | 西堀/溝江 9位長谷川/永田・草野/田中 25位(32) | |

(4) コンプライアンス委員会の設置と規程の改定

本会では、コンプライアンスの推進を事業運営上の最重要課題の1つに掲げて従来から取り組んできた。しかし、コンプライアンスの体制面からは、不十分な面も多くあったため、本会理事会にて倫理規程の内容の一部見直しと体制強化を盛り込んだコンプライアンス規程を新たに制定し、これを推進する組織としてコンプライアンス委員会を立ち上げた。

(5) 国内における国際大会の開催

ワールドカップ、ワールドリーグ、ワールドグランプリ大会を開催した。
ビーチバレーボールでは2009年以來の国際大会を開催した。

(6) 2020 東京オリンピック

2020 東京大会準備室の設置及び準備会議を開催した。

(7) 体罰・暴力への取組み

体罰・暴力の窓口相談件数が、1年間で48件あり、適宜対応した。

(8) 決算について

本年度は約97百万円の赤字予算を計上する厳しいスタートとなった。ビーチバレーボールのグランドスラムの赤字など赤字拡大という懸念もあったなか、経費削減努力や、観客数の増加などもあり最終損失は95百万円とほぼ予算どおりの結果となった。

*第6期(2015年度)事業報告についての詳細は、資料記載のとおり

(3) 2050年構想について

2050年構想について以下の通り説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

<2050年構想骨子>

JVAの目的

この法人は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、バレーボール競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、また豊かな人間性を涵養することを目的とする。(定款第3条)

JVAの宣言

JVAはバレーボールの“つなぐ力”を世界に育みます

JVAのビジョン

バレーボールがある素晴らしい未来

2050年の到達点

「バレーボールをもう一度、日本のトップスポーツへ！」

私たちJVA及びバレーボール界は一丸となり“つなぐ力”を日本全体に根付かせることで、バレーボールがある素晴らしい未来を実現させていく。そのためにはまず、私たちが行う事業範囲・内容の再定義と同時に、組織力・人材の強化といった基盤を整備しなければならない。そのうえで国の方針等を考慮しながら以下5つの未来のバランス良い実現を目指して活動することで2050年の到達点の達成を目指す。

1. プレイヤー人口・・・登録競技人数100万人

日本中の人々が笑顔でボールをつなぐ未来

○大会の再検証／カテゴリーごとの育成・楽しみ

2. 事業規模・・・事業規模 100 億円
バレーボールの素晴らしさが誰にも認められる未来
○イベント作り／環境整備／発信力の強化
3. 競技力・・・4つの金メダル
代表チームが世界の強豪国と互角に戦う未来
○トップリーグとの連携強化／全関係者との連携／アスリート支援 等々
4. 社会貢献・・・支えるバレーボールファミリー人口 100 万人
バレーボールの力が社会の力となる未来
○組織・団体との連携／地域との連携／教育面への寄与
5. 高潔性・・・違法行為・暴力・体罰ゼロ
バレーボールが嫌いな子供が一人もない未来
○ガバナンス強化／クリーンさ／男女平等／コンプライアンス

(4) 中期計画について

2050 構想に基づく中期計画について資料をもとに説明が行われたが、審議過程で、理事より「提案された中期計画案については具体的な目標とそれに向けて何を実行するかが記載されていない為、そこを今後検討し明記していただきたい」旨の指摘を受け、さらに内容の充実を図るため今回は決議を見送ることで全会一致した。

(5) 監事推薦候補者の決定について

監事推薦候補者の決定について、本日までの経緯と役員候補者推薦委員会での候補者決定に至る審議の経過について説明がなされた。

<本日までの経緯説明>

- 2016 年 6 月 22 日の定時評議員会終結の時をもって、高橋監事、大西監事、廣監事の任期が満了となり、評議員会において定款に記載の通り、監事 3 名以内の選任が行われる。
- 2016 年 1 月 19 日に開催された第 7 回理事会において、役員候補者推薦委員会の設置及び役員候補者推薦委員 7 名が選任された。(西川評議員、木村会長、林理事、大西監事、中野事務局員、外部委員からは間野氏、村井氏)
- 3 月 17 日に役員候補者推薦委員会を開催し、理事と加盟 57 団体から推薦された候補者について審議を行い、今回理事会に提案する候補者リストを決定した。

<役員候補者推薦委員会の審議経過説明>

- 7 名の役員候補者推薦委員（全委員出席）によって、審議を行った。
理事・各加盟団体から 5 名の候補者が推薦された。

監事は独立した立場から物事の是非を判断し、中立性が重要とされる。監事候補者を審議する視点として、新しい風を取り入れ新陳代謝を促進させる必要がある反面、監事としての継続性も必要との意見も挙がった。結果、候補者の経験、職務遂行能力、新陳代謝、監事としての継続性等を総合的に判断した上で役員候補者推薦委員会から今回3名の候補者リストを理事会に提出した。

(推薦候補者) 工藤陽子：米国公認会計士、新日本有限責任監査法人アカウンティングソリューション事業部・財務会計アドバイザーシニアプリンシパル
西川秀人：株式会社丸の内よろず社外監査役
廣 紀江：現 JVA 監事、学習院大学スポーツ・健康科学センター教授

<決議について>

(決議方法) 会長より無記名による決議権行使書を用いた投票決議を行うことについての提案があり、全会一致で採用された。

(決議結果) 工藤陽子、西川秀人、廣紀江の3名について6月22日に開催される定時評議員会に提案される次期監事候補者として承認可決された。

(6) 定時評議員会の開催及び目的事項について

定時評議員会の開催及び目的事項について以下の通り提案がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

【定時評議員会の目的事項等について】

1. 日 時： 2016年6月22日(水) 14:00~16:00
2. 場 所： 東京体育館 第1会議室
3. 決議事項
 - (1) 第6期計算書類等の承認の件
第6期・2015年4月1日から2016年3月31日までの計算書類(貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書、財産目録)の承認を受ける件
 - (2) 監事選任の件
任期満了に伴い、定款の定めによる監事3名以内選任の件
4. 報告事項
 - (1) 第6期事業報告の件
 - (2) 2050年構想について
 - (3) 監事の任期満了について

(4) 定年に関する規程及び役員候補者推薦規程の改定について

(7) アスリート委員会委員の追加選任について

アスリート委員会委員の追加選任について下記の通り説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

アスリート委員会としての活動範囲を広げ、活動内容を充実させるためには、より多くの現役選手からの声を聞く必要があり、今回以下の委員を追加選任することとしたい。

＜追加メンバー5名＞

- ・秋山美幸 : 元 NEC レッドロケッツ選手／現青山学院女子バレーボール部コーチ
- ・上場雄也 : ビーチバレーボール日本代表選手／松戸レガロ所属
- ・内山正平 : 豊田合成トレフェルサ所属
- ・奥村麻依
: JT マーヴェラス所属／リオ五輪強化指定選手
- ・長谷川暁子 : 元 ビーチバレーボール日本代表選手／ミキハウス所属

(8) 選手選考基準について

選手選考基準について説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

今回の基準の制定は、日本代表選手選出において競技者と競技団体との紛争を前もって回避し、大きなトラブルに発展させないためにも、選考基準を明確にしてもらいたいとの日本オリンピック委員会からの要請を受けた事による。併せて、本件については、理事会でもオリンピックの選手選考基準を明確にするべきとの指摘があった。

今回強化事業本部とビーチバレーボール事業本部で本基準を作成した。

この基準の設置目的は、リオデジャネイロオリンピックで上位入賞を目指すことのできる日本代表チーム編成のために制定するものであり、以下の内容を規定している。

- ① 選手選考における権限の所在
- ② 選考基準と選考手順（方法）
- ③ 発表と通知
- ④ 候補選手のコンプライアンス遵守義務

(9) 定年に関する規程及び役員候補者推薦規程の改定について

定年に関する規程及び役員候補者推薦規程の改定について説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

【定年に関する規程（下線部は変更点）】

■（定年）

第3条 評議員、役員及び委員会委員は、選任基準日においてその年齢が70歳未満で

なければならない。

但し、理事の任期満了時点で会長の職にある者が、70歳以上で理事に再任することは妨げない。〈追加〉

【役員候補者推薦規程（下線部は変更点）】

■（役員候補者推薦委員会）

第3条 委員会は、評議員1名、理事（業務執行理事）1名、理事（業務執行理事以外）

1名〈変更〉、監事1名、事務局員1名及び評議員、代表理事、理事、監事、事務局員以外の属性である委員2名、合計7名の委員で構成する。

2 委員会の委員は、理事会において選任する。

3 委員会の議長は、当該委員会において委員の中から選出する。

4 議長は、必要に応じてこの法人の会長に委員会への出席を要請し、意見を求めることができる。〈追加〉

■（定年制）

第5条 役員は、選任基準日においてその年齢が70歳未満でなければならない。

但し、理事の任期満了時点で会長の職にある者が、70歳以上で理事に再任することは妨げない。〈追加〉

今回の提案理由として、①会長として資質がある方の選考の幅をより広げることができる②役員候補者推薦委員会の構成メンバーから会長が外れることにより、委員会がより中立性・公平性を保つことができると述べた。

また、役員（理事）及び会長の選任にあたっては、従来通り適任かをチェックする以下の4つの機能が働くことになる。

①役員候補者推薦委員会での審議を経て役員候補者リストの決定

②理事会にて役員候補の承認

③評議員会にて役員を選任

④理事会での会長の選任

(10) コンプライアンスホットライン制度運用規程の改定について

コンプライアンスホットライン制度運用規程の改定について下記の通り説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

本件は、みなし決議により2016年5月9日付で承認されたが、急ぎ準備をして承認を得たため、その後2つの法律事務所及びJVA間での業務範囲、業務手順について調整が必要となり、一部規程の修正が発生した。ただし、修正部分は、規程の趣旨を大きく変更する内容ではない。

*コンプライアンスホットライン制度運用規程の改定についての詳細は資料記載の通り

なお、先般のコンプライアンス規程の制定に伴い、「指導における倫理ガイドライン」についても「倫理規程」の引用部分を「コンプライアンス規程」の内容に差し替えが発生することが報告され、了承を受けた。

(11) 表彰規程の改定について

表彰等規程の改定について以下の通り説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

【表彰規程（下線部主な変更点）】

2. 第2条1. (1) ①「功労者Ⅰ」、(1) ②「功労者Ⅱ」並びに第2条1. (2)「功労団体」の表彰については本会にて執り行う。

9 ブロック理事長会から、「功労者Ⅰ表彰」だけではなく、「功労者Ⅱ表彰」に関してもJVAにて表彰を執り行ってもらいたいという要望を受け、表彰委員会で検討の結果、今回改定に至った。

(12) 体罰・暴力に対する処分の決定について

体罰・暴力に対する処分の決定について以下の通り説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

2016年5月23日に開催されたコンプライアンス委員会にて、下記処分案が決定されたので、理事会の承認を経て、正式決定致したい。

■対象者

鹿児島県高等学校教諭、男子バレーボール部顧問

保有資格：公認バレーボール指導員

■公表された事実関係

- ・当該高校男子バレーボール部員の一人の右頬を左手で少なくとも10回叩き、別の男子部員一人の右頬を左手で少なくとも5回叩いた。
- ・上記男子バレーボール部員の一人に対して不適切な発言を行い、精神的苦痛を与えた。
- ・さらに、2013年4月から2015年10月にかけて、少なくとも13回にわたり生徒の頬を叩いたり、胸や肩を突くなどした。

■コンプライアンス規程違反と認定する理由

この事実は公益財団法人日本バレーボール協会コンプライアンス規程第6条-2-(1)（禁止事項）に違反する行為と認定する。

■本件に関する処分案

公認バレーボール指導員資格の登録抹消処分とする。

(13) 役員報酬について

役員報酬について下記の通りに説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

2015年7月29日に開催された2015年度第4回理事会（臨時）にて木村会長の役員報酬について決議が行われ、当時は赤字削減に対する会長の強い意思によって、本来の報酬額から23%減で支給してきた。今年度は、経常利益が200百万円以上改善し、121百万円となるとともに、会長として精力的に職務にあたっていることから、本来の会長の報酬額に戻すことを提案する。

なお、他の業務執行理事の役員報酬及び非常勤役員手当については現状（減額を実施中）からの変更はない。

7 報告事項

(1) 2016年度第1四半期職務執行報告について

法令及び理事会運営規程に基づき、2016年度第1四半期の職務執行報告が行われた。主な報告内容は以下の通りである。

【木村代表理事／会長】

- ①9ブロック理事長会 出席
- ②FIVB理事会（スイス）出席
- ③2050年構想策定委員会 出席
- ④第65回黒鷲旗開会式 挨拶
- ⑤AVC理事会（バンコク）出席
- ⑥Vリーグ（豊田合成、PFU、久光製薬）各チーム 祝賀会出席
- ⑦熊本県、大分県バレーボール協会へ義援金のお届け

【林業務執行理事／事務局長】

- ①職員、強化スタッフ等との契約更新業務
- ②東京大会2020準備室定例会議 出席
- ③役員候補者推薦会議 出席
- ④ムーブメントプロジェクトリーダー会議 出席
- ⑤コンプライアンス規程会議・委員会 出席
- ⑥各協力社、関係先との折衝
- ⑦Vリーグ機構関連業務

【下山業務執行理事／国際・国内事業本部長】

- ①9人制プロジェクト会議 出席
- ②2016世界最終予選 兼 アジア大陸予選 会議出席、大会運営
- ③黒鷲旗代表者会議 出席、大会運営

- ⑤ 6人制、9人制クラブ選手権実行委員会会議 出席
- ⑤2017 ワールドグランドチャンピオンズカップ大会 打合せ
- ⑥2018 女子世界選手権大会 打合せ
- ⑦2019 ワールドカップ男女大会 打合せ

【宮島業務執行理事／M&M 事業本部長】

- ①世界最終予選 兼 アジア大陸予選スポンサー対応
- ②JOC&TOCOG 広報・マーケティング実務者セミナー 出席
- ③全日本男子・女子記者会見 対応
- ④ビーチバレーボールイベント 視察
- ⑤オフィシャルスポンサー契約業務
- ⑥2016 年度ルールブック販売関連
- ⑦「VOLLEYBALL CHANNEL」の番組チェック及び企画内容の確認作業

【井原業務執行理事／業務推進室長】

- ①コンプライアンス委員会 出席
- ②ビーチバレーボール部長会 出席
- ③FIVB 財務委員会 出席
- ④監事会 陪席
- ⑤大田区松原区長への訪問
- ⑥企画部会議出席
- ⑦公認会計士監査説明打合せ

【桐原業務執行理事／ビーチバレーボール事業本部長】

- ①男女日本代表決定戦 視察
- ②品川区役所、杉並区役所 訪問
- ③ジャパンビーチバレーボールツアー大会 開幕
- ④Vリーグ部長会 出席
- ⑤U21 世界選手権（スイス）帯同
- ⑥2017 年国際大会開催準備
- ⑦ビーチ転向選手の交渉

【荒木田強化本部長】

- ①JOC アスリート専門部会規程プロジェクト 参加
- ②シニア女子代表チーム中国遠征 同行
- ③シニア女子代表チーム合宿 同行
- ③プロジェクトコア監督活動 打合せ
- ④JVA アスリート委員会 出席

- ⑤中学校体育連盟議 出席
- ⑥ 世界最終予選 兼 アジア大陸予選男女大会

(2) 功労者Ⅱ表彰報告

第7期（2016年度）第1回功労者Ⅱ表彰者

夏目 維文 （静岡県バレーボール協会 副会長）

(3) 「熊本県熊本地方を震源とする地震」復興支援募金活動等について

「熊本県熊本地方を震源とする地震」復興支援募金活動等について以下の通り説明が行われた。

- 4月14日に熊本県熊本地方を震源とする地震が発生し、4月17日に全日本男子チーム・龍神 NIPPON は紅白戦を行った合宿先の沖縄市体育館（沖縄県沖縄市）にて、沖縄県バレーボール協会とともに「平成28年熊本地震災害支援共同募金」を実施し、422,802円の支援金が集まった。支援金は沖縄県バレーボール協会を通じて熊本県バレーボール協会に届けられた。
- 4月29日から開催した第65回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会では会場の大阪市中央体育館（大阪府大阪市）において、本大会出場チームならびにVリーグの「キャプテンミーティング」参加選手を中心とした『「熊本県熊本地方を震源とする地震」復興支援募金活動』を実施し、大会期間中に集まった1,977,966円は毎日新聞社の社会事業団を通じて熊本県の義援金受付窓口へ届けられた。
- 5月16日に木村会長が熊本県と大分県を訪問し、両県のバレーボール協会に日本バレーボール協会からの支援金として熊本県に1,000,000円、大分県へ500,000円と、事務局内で募った支援金を届けた。
- 5月14日（土）より東京体育館（東京都渋谷区）にて行われた「2016リオデジャネイロオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選大会」では、JVAアスリート委員会を中心に、バレーボール、ビーチバレーボールの現役選手、Vリーグチームや世代別全日本チーム、OB・OG選手に加え、様々な競技のアスリートが募金活動を実施し、大会期間中に集まった6,397,190円を6月9日に木村会長、竹下アスリート委員会委員長、越川アスリート委員によって、熊本県知事に直接届ける予定である。

以上をもって、議事の全ての審議を終了した為、議長は17時に閉会を宣した。